

【南三陸復興学びのプログラム体験レポート】

2014年3月13日（木）

仙台駅8時20分発の南三陸町経由気仙沼行き的高速バスに乗りこんだ。ここに同じ目的でバスに乗っている人は何人いるのだろうか、もしかしたら僕一人かも知れないとも思いながら、半ばワクワクしながらバスに乗っていた。10時過ぎに南三陸町の「ホテル観洋前」で降りると、何と15人くらいの人が集まっていて、こんなにたくさんの方が参加しているんだなと思いながら、今日案内してくれるユナイテッドアースのスタッフの北子さんが出迎えてくれた。その後マイクロバスに乗って、まず「南三陸さんさん商店街」の近くにある集会場でオリエンテーションを行い、これからの日程や大まかな南三陸町の震災の時から現在に至るまでの様子等説明してくれた。その話の中で、印象に残っていることが2つ。1つは、現在まだ220名余りの人が行方不明であり、未だにがれき撤去できていないところから、まだ骨や遺品が出てくるし、海岸にもうち上げられるものもあるということ。2つ目は、仮設住宅が置かれている所は、現在もできた当時から変わらず町内には58カ所あり、震災から3年たっても住民の居住するところが復興できておらず、仮設住宅を出て南三陸町から離れるという人口流出が増えているということ。まだまだ辛い現実があるんだなと思った。最後に、この学びのプログラムに参加している人の自己紹介があって、いろんな地域から来ているのがわかったことと、意外と大学生の若者が多かったのが、何かうれしかった。日帰り組を合わせて17名参加していた。今日は天気が悪くなりそうな気配であった。

さあ、いよいよそれぞれの被災現場での語り部ガイドの始まりである。まず最初に行ったのが、あまりにも有名な南三陸町防災庁舎。僕としては、久しぶりに防災庁舎を訪れ、犠牲者に手を合わせ、再び震災の悲惨さに触れた。周りを見ると、建物の基礎の部分がなくなっており、ゴツゴツした感じはなく、整地されたところが増え、盛り土をしているところが増えていた。盛り土は5mくらいの高さがあり、町全体をその高さに底上げして復興していくということらしいが、未だに盛り土をしているところも少なく、これから大量に土が必要になってくるし、復興もまだまだこれからだなと思った。前にあった志津川病院もサンポートというスーパーも撤去されており、蒸気機関車が倒れていたがれきの山も無くなっていた。がれきは、昨年(2013年)中に37万トン全てを焼却したとスタッフの方が話してくれていた。そして「南三陸さんさん商店街」のところに戻り、そこで昼食に「南三陸復興キラキラ春つげ丼」を食べて、南三陸の海産物を味わい、おみやげ屋さんに寄ってみやげ物を少し買った。雨がひどくなってきた。

その志津川地区より南にある次の被災現場である戸倉地区へ行き、海岸近くの戸倉小学校があった場所に行き、震災の2日前に、避難場所を小学校の屋上から裏山に急遽変更し、前日にはその避難訓練を行い、その結果当日は多くの子どもたちが救われたという話を聞いた。さらにその避難して一夜を明かした裏山の頂上付近にも行った。その後戸倉中学校にも行き、海拔20m以上の高さにあるこの中学校まで津波がおしよせられたことを知り、改めて津波の凄さを知った。その後、志津川地区に戻り、志津川病院の前にあった高野会館という建物で、その館長さんが震災当時その会館にいた人を救った話を聞き、以前来た時にがれきが積んであり蒸気機関車が倒れていた海岸通りをマイクロバスで走り、山の方に向かいベイサイドアリーナという体育施設のある地域へ行った。そこには今の志津川診療所と南三陸町の役場があったが、まだ仮の建物だった。

それからさらにもう一つの被災現場である歌津地区の方へ行き、JR気仙沼線の駅で津波の被害にあった「清水浜駅」の生々しい様子を見学した。3年たってもまだ手つかずの状態であり、こんなところもまだまだあるんだなと思った。その後「伊里前福幸商店街」に行き、そこ

である一つの郵便ポストを見た。もともとこの地域のセブンイレブンにあったポストが震災の時に流され、それが沖縄の西表島まで行き、2012年2月28日に付近の住民に発見されたポストで、発見当時話題になったらしい。日帰り組はここでバスに乗って帰っていった。宿泊組は2つの民宿に6人と8人で別れた。こちらは8人組で男性4人で相部屋、女性4人も同じ。夕食はとても豪華で、おそらく近辺でとれる海のものが多く、お腹一杯食べることができた。その時に参加した人同志でいろんな話が出来てよかった。大学生が4人もいたのはすごい。若い人はどんどんこういうところに参加したらいいと思う。来ている人たちは、石川、富山、岐阜、仙台、千葉といろんなところから来ていた。みんなそれなりにいろんな思いを持って来ているんだなと思った。

3月14日（金）

朝6時半頃起きて、朝風呂に入り(これがまた気持ちよかった)、朝食を食べた。朝食は海藻類や塩辛等海のものも多く、健康食品ばかりでおいしかった。8時半頃に、ユナイテッド・アースのスタッフの佐藤くんが車で迎えに来てくれて、ボランティア活動に行く高橋さんのところまで送ってくれた。

漁師の高橋さんは、僕たちを温かく迎えてくれて、これから行う作業のやり方や震災当時の様子、僕たちの出身地のことなど、僕たちとざっくばらんに話しをしてくれた。そしてそこでまずやったのは、コンテナに入れてあったワカメを一本一本太い方からきれいに並べ、束ねることであった。四角に固まってある膨大な量のワカメをほぐし、並べる仕事はとても単純な作業だけれど根気強くやらなければいけないなと思った。その次の作業は、その並べたワカメを一本ずつ太い方の先から指の広げた長さ分くらい、ワカメの葉の部分を取る作業であった。これも根気強くやらなければならないが、葉の部分を取る作業は少し難しく、途中で切れたり、茎の部分の切ってしまったりして上手くいかないこともあったけれど、段々慣れてきて、終わり頃にはきれいに取れるようにもなった。途中の休憩では、コーヒーをいただいたり、その採れたてのワカメやめかぶをご馳走になり、本当においしかった。昼食は近くの食堂兼みやげもの屋さんで僕は志津川名物のタコのお刺身定食を食べ、これもコリコリして美味しかった。昼からの作業も引き続き、ワカメの葉を取る作業で、2時半頃まで行った。高橋さんの御主人や奥さん、そのお母さんやお父さんも丁寧に親切に対応してくれて、僕らボランティアに対してとても温かく接してくれていて、気持ち良く作業をやらせてもらった。何度もありがとうございますって言う言ってくれていたが、こちらこそこんな機会をつくっていただけてありがとうございますって言う気持ちでいっぱいだった。少しでも役に立ったかな、それだったらよかったかなと思った。

2時40分頃そこを離れ、再び「さんさん商店街」に行き、おみやげ物タイムとなったが、スタッフにお願いして、志津川中学校まで連れて行ってほしい、そこから下を見下ろして、志津川地区全体の様子を以前と比べながら眺めた。少し変わった感じはするけど、相変わらず復興はまだまだやなと感じた。そうそうボランティア活動の途中で前からおられるスタッフの麻子さんが来てくれて、この人は以前ボランティア活動に参加した時にお世話になった人で、久しぶりに再会できて、うれしかった。こんなに長い期間この南三陸町のボランティア活動に携わっているなんて本当にスゴイなと思った。商店街の前にあるモアイ像の前で記念写真を撮り、仙台行きのバスに乗る組を二つに分けてそれぞれのバス停に向かった。僕たちの組は、昨日日帰り組が乗っていったところ「伊里前福幸商店街」のバス停で、そこでバスに乗って、スタッフの佐藤くんとお別れした。有意義な2日間を過ごすことができて本当によかった。